

令和元年 6 月 5 日（水）
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

記者発表資料

第9回 技術交流会の開催について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、港湾空港分野の技術力をより高める取り組みとして、港湾空港技術研究所、並びに民間の方々から様々な新しい技術を8件発表いただき、参加者との意見交換を行う技術交流会を開催します。

記

1. 日 時

令和元年6月26日（水） 13時10分～18時00分
（受付12時40分より）

2. 場 所

横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ
（神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4）

3. プログラム及び発表テーマ

別紙のとおり

4. 参加申し込み

技術交流会の参加には事前に申し込みが必要です。6月21日（金）までに横浜港湾空港技術調査事務所ホームページより申し込み下さい。

アドレス：<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

なお会場の都合上、参加者は先着50名とします。

※取材を希望される場合は、6月19日（水）18時00分までに下記担当者までご連絡をお願い致します。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ

問い合わせ先

所属 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
担当 調査課長 遠藤 正洋（えんどう まさひろ）
電話 045-461-3893

第9回技術交流会 プログラム

日時 令和元年6月26日(水) 13:10~18:00
 場所 横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ 1F
 プログラム

No.	時 間		テーマ	発表者
	13:10	- 13:20	開会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 所長 野口 孝俊
1	13:20	- 13:50	内圧充填接合補強(IPH)工法の港湾空港施設への補修活用事例について (NETIS登録番号:CG-070007-V)	株式会社 ガイアート 関東支店 若山 裕泰
2	13:50	- 14:20	アスファルト舗装用ひび割れ抑制シートによる、港湾空港敷地内舗装のライフサイクルコスト低減 (NETIS登録番号:KT-160100-A)	株式会社アークノハラ 営業戦略部営業推進室 将基 裕司
3	14:20	- 14:50	硬土土質に対応した無振動低騒音式地盤改良工法「KS-EGG-SE工法」 (NETIS登録番号:KTK-180001-A)	あおみ建設株式会社 土木本部 地盤改良部 大古利 勝己
	14:50	- 15:05	休憩 1回目 (15分間)	
4	15:05	- 15:35	最近の港空研における空港アスファルト舗装に関する研究の紹介	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹 伊豆 太
5	15:35	- 16:05	RTK-GNSSを用いた地震後係留施設の使用可否判断支援ツールの開発	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 耐震構造研究グループ 研究官 伊藤 広高
6	16:05	- 16:35	船舶動静共有航行支援システム (NETIS登録番号:KTK-180007-A) -船舶事故を防止する為、衝突時間予測、アプリ同士の会話も可能にしている技術-	アイディア株式会社 下川部 知洋
	16:35	- 16:50	休憩 2回目 (15分間)	
7	16:50	- 17:20	マウンド構造物による長周期波の反射波抑制	株式会社エコー 水理解析部 長谷川 巖
8	17:20	- 17:50	鋼杭により補強された混成防波堤構造に関する水平抵抗特性	東京理科大学大学院理工学研究科 土木工学専攻 毛利 惇士
	17:50	- 18:00	閉会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 副所長 中川 大

第9回技術交流会発表テーマ一覧

番号	テーマ	概要	発表者
1	内圧充填接合補強(IPH)工法の港湾空港施設への補修活用事例について (NETIS登録番号:CG-070007-V)	コンクリート構造物の補修・補強が可能な樹脂注入工法として、内圧充填接合補強(IPH)工法が開発され、橋梁・床版・基礎・トンネル等で活用されている。 本工法は、微細なひび割れ(幅0.01mm)まで注入可能であり、土木学会で評価された補修補強工法であるが、現時点、港湾空港関係での使用実績は少ない。 今回、名古屋空港エプロン部での本工法による補修実績を紹介するとともに、補修を予定している横浜港コンテナバースの事例を紹介する。	株式会社 ガイアート 関東支店 若山 裕泰
2	アスファルト舗装用ひび割れ抑制シートによる、港湾空港敷地内舗装のライフサイクルコスト低減(NETIS登録番号:KT-160100-A)	リフレクションクラック抑制シート『グラスグリッド』の紹介を通じて、舗装の維持管理において「予防保全」を行うことの重要性を提言する。当製品をアスファルト表層の下に敷設することでひび割れの発生を遅延させ、舗装の長寿命化に貢献する。既存製品に比べ、引張強度の向上により舗装の耐久年数を3倍にすることを可能とした。修繕や補修頻度の減少につながり、舗装のライフサイクルコスト低減を実現する。	株式会社アークノハラ 営業戦略部営業推進室 将基 裕司
3	硬土土質に対応した無振動低騒音式地盤改良工法「KS-EGG-SE工法」(NETIS登録番号:KTK-180001-A)	KS-EGG-SE工法は、市街地及び構造物近傍において地盤中に締固め砂杭を造成する無振動低騒音式の地盤改良(サンドコンパクションバイル)工法である。周面摩擦を低減させる特殊形状の掘削拡張ヘッドを採用したことで、打設箇所に多少の障害物や硬い層が存在しても掘削土を排土させることなくケーシングを貫入することができ、さらに改良杭の拡張締固めを行うことが可能な工法である。	あおみ建設株式会社 土木本部 地盤改良部 大古利 勝己
4	最近の港空研における空港アスファルト舗装に関する研究の紹介	空港表層のアスファルト舗装の骨材粒度については、「空港土木工事共通仕様書」で満足すべき範囲が規定されているが、この範囲を含めて粒度を変えた場合の影響及び表層と基層の付着のため散布されるタックコートについて温度等を変えた室内引張試験、せん断試験等の実験結果等実施した研究について紹介する。	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹 伊豆 太
5	RTK-GNSSを用いた地震後係留施設の使用可否判断支援ツールの開発	地震発生後には船舶による緊急物資の輸送や救援活動などを行うため、係留施設の使用可否判断を行う必要がある。地震直後の係留施設の損傷程度を把握する指標として天端の水平変位があり、その測量方法の1つにRTK-GNSSがある。しかし、天端では変形が見られなくても地中部で損傷している場合もあるため、天端の変位から係留施設の各部分の損傷程度を簡易的に推定できるツールの開発を行ったのでこれを報告する。	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 耐震構造研究グループ 研究官 伊藤 広高
6	船舶動静共有航行支援システム(NETIS登録番号:KTK-180007-A) —船舶事故を防止する為、衝突時間予測、アプリ同士の会話も可能にしている技術—	AIS搭載船と同じアプリを利用している船舶の監視ができ、同じアプリ船との通話、工事区域、工事内容、危険箇所の共有、他船接近警告と衝突予測時間の表示を行う技術である。	アイディア株式会社 下川部 知洋
7	マウンド構造物による長周期波の反射波抑制	長周期波による荷役障害が問題となる港湾が多くなっており、長周期波の反射波抑制工法の開発が喫緊の課題である。その対策として港内に消波構造物を設置して長周期波の反射波を抑制する工法が適用されつつあるが、まだ適用事例は少ない。構造が単純で既設構造物に事後に設置が可能な長周期波対策工であるマウンド構造物について、長周期波の反射波抑制効果と適切な断面諸元を紹介する。	株式会社エコー 水理解析部 長谷川 巖
8	鋼杭により補強された混成防波堤構造に関する水平抵抗特性	防波堤の耐津波性能の向上を目的として、混成防波堤のケーソンの背後に鋼管杭を連続的に打設し、ケーソンと杭の間に中詰土を施す新形式の「鋼管杭式防波堤」が提案されている。これまでに行われた一連の水理模型実験や数値解析、模型気中水平載荷実験によって、鋼管杭式防波堤の水平抵抗特性に関する検討がなされてきた。本発表では、既往の研究により得られた知見を紹介するとともに、鋼管杭式防波堤で用いられる杭に作用する港外側からの外力分布の推定を実験的に検討した結果を取り上げる。	東京理科大学大学院理工学研究科 土木工学専攻 毛利 惇士